
開講科目名：現代会計論研究 (A) (2単位)

開設年次：1年 2年

開設学部：会計学研究科博士前期課程会計学専攻

担当者：荒鹿 善之

《授業の概要》

【授業の目標】

本講義では国際会計に関する英語文献を輪読し、会計基準の国際的調和化・統一化、および各国における国際会計基準（IFRS）の国内導入（アドプション）の経緯について理解を深めることを目標とします。

また、修士論文やリサーチペーパーの執筆において、少しでも英語文献を参考にできるような準備にも取り組みます。毎回の授業において各自、テキストの担当箇所を翻訳し、発表する形式で授業を進めます。

【授業の概要】

1980年代後半から会計基準の国際的調和化が盛んに議論されるようになり、近年では世界各国においてIFRSのアドプションが行われています。日本でも2001年に企業会計基準委員会（ASBJ）が設置され、会計基準の国際化対応に追われてきました。その結果、現在では200社の企業がIFRSを任意で適用するようになりました。

このような現状において、国際会計基準審議会（IASB）のこれまでの活動を振り返るとともに、どのような経緯を経てIFRSが各国へ浸透したのかを考察することは意義のあることだと思われます。また、修士論文やリサーチペーパーを執筆するにあたり、会計に関する外国語文献に触れる必要があると考えられます。

そこで、上述したように、国際会計に関する英語文献を輪読し、会計基準の国際的調和化・統一化、および各国におけるIFRSのアドプションの経緯について考察します。加えて、修士論文やリサーチペーパーの執筆において、少しでも英語文献を参考にできるような準備にも取り組みます。

【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 Reasons for harmonization
- 3 Example of the need for harmonization
- 4 Obstacles to harmonization
- 5 Measurement of harmonization
- 6 History and purpose of the IASC
- 7 The standards and acceptance of them
- 8 Was the IASC successful?
- 9 Empirical findings on the IASC
- 10 International Federation of Accountants
- 11 The AISG, the G4+1 and the national standard-setters
- 12 IOSCO
- 13 European Union
- 14 Other regional bodies
- 15 まとめ

なお、定期試験（レポート提出）を実施します。

【評価方法】

授業における課題の発表内容、および期末に提出するレポートの内容から総合的に評価します。

《テキスト》

Nobes, C. and Parker, R. “Comparative International Accounting, 13th ed.” Pearson.
Kinserdal, A. “Financial Accounting –an international perspective–(second edition)” Financial Times Management.

《参考書》

Kawasaki, T. and Sakamoto, T. “General Accounting Standard for Small and Medium

Sized Entities in Japan” Wiley.